

驛舎ノ馬士昇夫等、此菅笠ヲ用フ、菅本ノ赤キ下品也、菅末ヲ切ラズ、上ニ出ス、切之テカムルモア
リ、專ラ不切之シテ用フル者多シ、

〔和漢三才圖會二十六〕菅笠略○中

檜笠。出於和州吉野、山人及修驗行者用之、

〔安齋隨筆前編五〕一檜笠。ひの木のおじろ笠なるべし、あじろ笠、古畫にあり、竹

〔松の落葉四〕笠

ひがさは檜にてつくりて、柄あるかさなり、日笠とこゝろうるはわろし、菅笠のたぐひの名にな
ん、今もこの國中備の山里につくりいだすところあり、人のえさせければ、おのれももてり、扇に
つくるやうにもおしたるなり、榮花物語御著裳卷に、おきないとおやしききぬきやれたるひが
ささしてとあるを見るべし、

〔榮花物語十九御著裳〕堂あるじといふおきないとおやしききぬきやれたるひがささして、ひもとさ
てあしだはきたり、略○下

〔我衣〕檜笠、尤古來ヨリ有、和州大峯へ入山伏是ヲカムルコト、古來ヨリ有、雨笠日笠兩用ニス、

〔守武千句〕猫何第二

有明の月はいかにもひく、して かうやひじりのきたるかさ、き

〔嬉遊笑覽二器用〕是は檜笠の平たき、あじろ織なるべし、

〔毛吹草三〕紀伊 檜笠ヒガサ山伏用之

〔紀伊續風土記物産十下〕非乃木笠ヒノキカサ 非乃木籃ヒノキカゴ

右三種、日高郡山地莊龍神村、牟婁郡本宮邊にて製作す、先年は扁柏皮を用ふ、今は此邊に多く産
するアラハナ一名カヘデノ木といへる木皮にて製し、扁柏皮を用ひず、